

近江楽座

まち・むら・くらしふれあい工舎

2019

学生も

大学も

地域も、

いっしょに育つ。

<http://ohmirakuza.net>

滋賀県立大学 スチューデントファーム「近江楽座」—まち・むら・くらしふれあい工舎—

STUDENTS DENT FARM

「近江楽座」=学生らしさを活かして、地域に学び、育ち、貢献できる場

「近江楽座（おうみらくざ）」とは？

滋賀県立大学の「スチューデントファーム「近江楽座」—まち・むら・くらしふれあい工舎—」は、地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定して、全学的に支援する教育プログラムです。2004年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択され、2006年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取り組みとして、学内外で高く評価されました。そして、翌2007年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、これまでに培ってきたノウハウや地域とのつながりを活かし、更なる活動を展開しています。

教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

- 地域の課題に大学・学生が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局（地域共生センター）の連携の下、3つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

■ **活動助成システム**
「スチューデントファーム「近江楽座」」として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。

■ **コンサルティングシステム**
教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。

■ **地域「知」のリソースシステム**
大学と地域連携に係わる情報を他大学、研究機関、行政、NPO団体などと共有化・活用するためのデータベースを構築し、活動をサポートします。

プロジェクトタイプ

A プロジェクト（学生主体型プロジェクト）

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。昨年度までの継続活動を対象とした①「継続プロジェクト」、新規活動を対象とした②「新規プロジェクト」、SDGsと深く関わり、自分たちの取組を学校や地域等に普及することに力を入れている③「Eプロジェクト」、さらにこれまでの実績をもとにステップアップをめざすプロジェクトで、活動資金の助成を必要としない④「Sプロジェクト」の4つの区分で募集し、支援するプロジェクトを選定しています。

B プロジェクト（地域協働型プロジェクト）

自治体や企業、団体等から依頼のあった課題の中で、学生が中心になって取り込むのがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集し、指導教員、地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトを取り組みます。現在、「県営開拓今田地コミュニティ再生プロジェクト」（2016～）に取り組んでいます。

A プロジェクト

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト。

- 継続プロジェクト
 - Sプロジェクト 活動資金の助成を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指す取組
 - Eプロジェクト SDGsを掲げる17の目標達成につながる課題解決を推進するプロジェクト
- 新規プロジェクト

B プロジェクト

学生が主体となって取り組むのがふさわしい自治体や企業等から提示された課題に、学生チームと依頼先とが協働で取り組むプロジェクト

MANAGEMENT CYCLE

step1 発起

近江楽座につながる活動の芽
○「学生主体による地域貢献活動」がキーワード
○大学での授業、フィールドワーク、研究などすべてが近江楽座につながる活動の芽
学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見い出し、新たな実験的な試みを蓄積していくことが出来ます。

step2 計画

一年間で成果を上げるためのプランニング
○年一回、近江楽座のプロジェクト募集と審査会
○学生主体の活動であれば、誰でも応募可能
○所定の過程と厳正な審査を経て為される採択
公開で行われる審査会を経験することで、学生たちのプレゼンテーション能力が養われます。また、審査を通して自分たちのプロジェクトの評価を確認することが出来ます。

step3 活動

独自の支援を活用したプロジェクト展開
○活動資金の助成により、実践的な活動展開が可能
○教員と事務局が連携した全学的なサポート体制
○年度中に活動の中間報告を行い、活動の発展を図る活動助成やコンサルティングといった活動支援に加えて、近江楽座これまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを活かすこと、更なる成果や展開も生まれています。

step4 報告

大学、地域と共に成果と課題の再認識
○全てのチームで一年間の活動をフィードバックし成果と課題を共有し合う
○成果の発表だけでなく、地域関係者や一般の方とともに意見交換できる場づくり
活動成果の展示発表と同時に、地域の方々や外部講師を招いて開催します。より多くの方々と共にまちづくりを考える場をつくることで、近江楽座の活動を広くアピールして取組の発展を図ります。

近江楽座を経験し、地域へのまなざしを持つことで
学生もプロジェクトも次のステップへ。
そして、次へつながる新たな“種”が生まれる。



— VOICE / 先輩の声 —

三木 亜実さん（トライアドウェスト株式会社）
おとくらプロジェクト（2013-2015）

友達に付いておとくら喫茶を訪れ、場所の雰囲気と先輩や家主さんの人柄に惹かれておとくらプロジェクトに参加しました。楽座の活動では、普通に学校生活を送る中では繋がりを持つことのないような様々な年代の人と関わることができます。周りの大人口、地域の方々の力を借りて初めて活動が立ちます。

現在の仕事では、年に何度も地域の方向けの勉強会を開催しています。このような活動に参加させて頂けるのも、楽座での経験があつたことです。

学生時代は必死で、ただ目前の仕事をしているという気持ちでした。特に、災害支援として初めて田の浦を行った時は、何もかも手探りのスタートで、仲間と衝突することもありました。しかし、看護師になった今は、あの体験にはこんな意味があったのだなと気づくことがあります。未来看護塾での活動は、様々な価値観に触れるチャンスです。「失敗してもいいや」という気持ち、地域に入らせていただくんんだ、という気持ちを忘れずに、頑張ってください！皆さんも、大学時代にしかできないことを色々経験してください。



中川 杏奈さん（看護師）
未来看護塾（2010～2012）

看護師になつて振り返つた時に、自分の体験に意味づけができる。



SCHEDULE 2019-2020

4月 / April

新入生オリエンテーション(4/5)

応募説明会(4/12)

2018年度活動報告会(4/20)

合同説明会(4/18-4/19)

2019年度プロジェクト学内公募(4/12-5/10)

5月 / May

2019年度公開プレゼンテーション・審査会(5/25)

2019年度採択プロジェクト発表(5/30)

活動説明会(5/31)

6月 / June

プロジェクト活動開始(6/1)

湖風夏祭(6/15)

「おうみらくざプロジェクトレポート」発行開始

7月 / July

滋賀県立大学オープンキャンパス(7/20-7/21)

スキルアップ講座(7/19, 7/25)

10月 / October

スキルアップ講座

11月 / November

2019年度中間報告会

湖風祭(11/9-11/10)

3月 / March

活動実績報告会

4月 / April

2019年度活動報告会

ウェブサイトの情報が充実！



事務局スタッフが実際に取材、プロジェクトの生の様子を伝えて行きます。レポートは近江楽座のウェブサイトか、学内の掲示板でチェック！



PROFILE

近江楽座学生委員会

近江楽座をさらに推進していくことを目的にプロジェクトチームの代表経験者が中心となり、2006年度に結成された組織です。チーム間の交流・連携を目的として、交流会の開催や活動紹介冊子の作成など、学生ならではの視点で近江楽座をサポートしています。学生たちが学部や学科、プロジェクトの枠を超えて活動の輪を広げ、地域活性化に貢献するためのネットワークを形成していくことを目指しています。



近江楽座学生委員会

近江楽座専門委員会

滋賀県立大学の社会貢献活動の高度化・活性化を図る、地域共生センター運営委員会の一専門委員会であり、近江楽座のプログラムにおける企画・運営、プロジェクトの公募・審査、広報や学外交流などの議案を審議し、募集全般を推進することを目的とした教員による組織です。メンバーは各プロジェクトの指導教員だけでなく、それ以外の教員も含めた全学的な構成となっており、より広い視野で学生全体の地域貢献活動をサポートしています。

近江楽座事務局

近江楽座専門委員会の実務を担い、プロジェクトの募集や活動助成、予算の執行管理、活動成果まとめ、報告会の企画・実務等を行うとともに、チームの活動に対する指導や助言を行っています。また、取材や視察、協力要請といった外部からの問い合わせ窓口や活動紹介印刷物の発行、ホームページの運営を行い、広報・発信面でのサポートを行っています。

PROJECT CATALOG 2019



DATE

チーム名 (参加人数※)	
プロジェクトタイプ (発足年度)	
主な活動場所	
代表者名 (所属)	
指導教員 (所属)	
関連団体	
WEB	※2019年7月時点
活動別テーマカラー	環境 防災・復興支援 子ども・教育・福祉・健康 生活文化・伝統・調査 まちづくり・ものづくり

Bプロ 県営開出今田地コミュニティ再生プロジェクト

近江八幡学生委員会(5名)
継続(2016年～)、Bプロジェクト
彦根市開出今町 project
梅本彩夏(人間文化学部)
印原比呂志(人間文化学部)
県営開出今田地自治会・滋賀原住課

学生が住み、活かして、つながりを広げる

滋賀県と協定を締結し、県営住宅の空き戸室を活用して地域コミュニティの活性化を図る取組を進めています。活動は3つの柱からなり、1つがシェアハウス、学生が実際に暮らしながら地域と関わる活動を進めています。2つ目が、学生活動の拠点「学生ルーム」をつくることです。ミーティングやセミナー、情報共有、発信ができる環境を整備し、共同空間として活用しています。3つ目として田地でのイベントを行う予定です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
そろそろ会(①)	そろそろ会(②)	そろそろ会(③)	田地でイベント開催								

来店体験設利用(随時) 2020.3

Sプロ あかりんちゅ

あかりんちゅ(11名)
継続(2009年～)、Sプロジェクト
学内・彦根市・県外
関おり(人間文化学部)
平山奈央子(環境科学部)
滋賀県津守青年会
<http://akarinuchishiga-saku.net/>

エコで豊かな夜を

お寺などからやむなく廃業されるるるそく(遙狹残るう)を收回し、それを利用して手作りキャンドルの販売やキャンドル作り教室、キャンドルナイトを行っています。主な活動は湖風祭による地域の方からの依頼によるものが多く、中には県外からの依頼もあります。ナサイル以外に福祉への貢献、多くの方々や団体と関わることもありんちゅの魅力です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
販売・夏祭り	夏祭り	キヤンダルナイト									

会議(不定期)、イベント開催(月～1回) 定期活動(月～1回 制作など) そのほか、依頼によってイベント等の実施 2020.3

SDGs Eプロジェクト

02 地域博物館プロジェクト

ステューデント・キュレーターズ(27名)
継続(2012年～)
学内・滋賀県・島根県・近江八幡市
中島みなと(人間文化学部)
市川秀之・東代美(人間文化学部)
白谷莊歴史民俗博物館
<https://chikatena.ne.jp/sabuto12/>

文化財を教え! 我ら学生学芸員!

地域博物館プロジェクトの主要な活動は、「地域の皆さんと一緒に、地域文化化」を活動するための地域博物館制作をお手伝いすることです。チーム名である「ステューデント・キュレーターズ」とは、「学生学芸員」という意味です。滋賀県内の様々な地域で、古文書や民具などを調査し、地域文化財の保存に取り組んでいます。学生員や歴史・文化に興味がある皆さん! 私たちと一緒に活動してみませんか?

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西川右衛門家調査・展示(月1回)	西川右衛門家調査・展示(月1回)	滋賀県農業振興会議(月1回)									

SDGs Eプロジェクト

05 廃棄物バスターズ

廃棄物バスターズ(23名)
継続(2005年～)
学内・滋賀県・島根県・近江八幡市
中島みなと(人間文化学部)
市川秀之・東代美(人間文化学部)
白谷莊歴史民俗博物館
<http://chikatena.net/project/sabutan-hukousen/>

目標セリーサイクル社会!

一般家庭から排出されるプラスチック廃棄物でできた雨水タンクを製造し、その商品化に向けて研究や普及活動に取り組んできました。地域での環境ボランティア活動や、リサイクルブランダーを用いた福祉連携型産業消滅システム「hana-wa」プロジェクトの企画立案など、環境問題改善に貢献し、福祉との連携型事業に取り組むなど、先進的で幅広い活動を行っています。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博覧会(月1回)											

SDGs Eプロジェクト

08 タクロバン復興支援プロジェクト

タクロバン復興支援プロジェクト(10名)
継続(2005年～)
彦根市・滋賀県・県外
大野宏(環境科学研究所)
藤浦勝久(工学部)
San Carlos 大学
<https://chikatena.net/project/takoban-hukousen/>

現地の人と暮らしをつくる。

タクロバン復興支援プロジェクトは、2013年に被災があったフィリピンの環境ボランティア活動や、リサイクルブランダーを用いた福祉連携型産業消滅システム「hana-wa」プロジェクトの企画立案など、環境問題改善に貢献し、福祉との連携型事業に取り組むなど、先進的で幅広い活動を行っています。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
雨水タップ(月1回)											

SDGs Eプロジェクト

11 Taga-Town-Project

Taga-Town-Project(8名)
継続(2004年～)
滋賀県犬上郡多賀町
龍見瑞季(環境科学部)
泊正美(環境科学部)
ヒネス・ペドロ・カル・アントン・アラン・アントニオ(環境科学部)
NPO法人木の花プロジェクト
<https://chikatena.net/project/tagatown-project/>

学生目線で多質のいいところ発信中

Taga-Town-Projectとは滋賀県犬上郡多賀町を拠点に活動する団体です。学生から見た多質のいいところ、面白いところを発見・発信しています。今年度は各種ワークショップと、給馬通りマップの作成、フリーベーバーの作成、そしてYOSHIBAプロジェクトの4つの事業を開催します。ワークショップは写真 WS・星空観察会・地学巡回 WS・星雲観察会・地学巡回 WS・星雲観察会・地学巡回 WSの3種を行なう予定です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
報告会(月1回)											

SDGs Eプロジェクト

14 木興プロジェクト

木興プロジェクト(21名)
継続(2011年～)
宮城県南三陸町歌津地区田の浦
朝日ひかる(環境科学部)
ヒネス・ペドロ・カル・アントン・アラン・アントニオ(環境科学部)
NPO法人木の花プロジェクト
<https://chikatena.net/project/mokuokuteki/>

建築×被災地&復興まちづくり

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、建築とデザインを学ぶ学生として被災地に対して、なにができるかを考え、これまで培ったノウハウや関連団体とのネットワークを活かした木造建築の設計・施工による復興支援を目的として活動しています。また、小学校で出前授業を行ったり、科学実験教室の開催等、エネルギー教育にも力を入れて活動しています。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定期訪問											

SDGs Eプロジェクト

17 フラワーエネルギー「なの・わり」

フラワーエネルギー「なの・わり」(20名)
継続(2011年～)
彦根市内
東和宏(環境科学部)
浦部美佐子(環境科学部)
<http://kanowanayataidayori.jp/>

植物でエコな活動しませんか?

私たち「なの・わり」では、農家の方に休耕田をお借りして菜の花を栽培し、種から油を絞り、その油からバイオディーゼル燃料を精製・使用するにて資源循環型社会を形成することを目標に活動を行なっています。また、小学校で育てた花を水辺の生き物と触れ合う機会を持ってもらうような活動もしています。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定期訪問											

Bプロ 県営開出今田地コミュニティ再生プロジェクト

近江八幡学生委員会(5名)
継続(2016年～)、Bプロジェクト
彦根市開出今町 project
梅本彩夏(人間文化学部)
印原比呂志(人間文化学部)
県営開出今田地自治会・滋賀原住課

学生が住み、活かして、つながりを広げる

滋賀県と協定を締結し、県営住宅の空き戸室を活用して地域コミュニティの活性化を図る取組を進めています。活動は3つの柱からなり、1つがシェアハウス、学生が実際に暮らしながら地域と関わる活動を進めています。2つ目が、学生活動の拠点「学生ルーム」をつくることです。ミーティングやセミナー、情報共有、発信ができる環境を整備し、共同空間として活用しています。3つ目として田地でのイベントを行う予定です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
そろそろ会(①)	そろそろ会(②)	そろそろ会(③)	田地でイベント開催								

来店体験設利用(随時) 2020.3

Sプロ あかりんちゅ

あかりんちゅ(11名)
継続(2009年～)、Sプロジェクト
学内・彦根市・県外
関おり(人間文化学部)
平山奈央子(環境科学部)
滋賀県津守青年会
<http://akarinuchishiga-saku.net/>

エコで豊かな夜を

お寺などからやむなく廃業されるるるそく(遙狭残るう)を收回し、それを利用して手作りキャンドルの販売やキャンドル作り教室、キャンドルナイトを行っています。主な活動は湖風祭による地域の方からの依頼によるものが多く、中には県外からの依頼もあります。ナサイル以外に福祉への貢献、多くの方々や団体と関わることもありんちゅの魅力です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
販売・夏祭り	夏祭り	キヤンダルナイト									

会議(不定期)、イベント開催(月～1回) 定期活動(月～1回 制作など) そのほか、依頼によってイベント等の実施 2020.3

SDGs Eプロジェクト

03 とよさと快蔵プロジェクト

とよさと快蔵プロジェクト(105名)
継続(2016年～)
彦根市開出今町 project
梅本彩夏(人間文化学部)
福留義典(人間文化学部)
林幸司(環境科学部)
NPO法人よよさとまちづくり委員会
[@toyosato_kajou](https://twitter.com/toyosato_kajou)

古民家改修でまちを元気に!

古くからの古民家軒を並べる由緒あるまち。しかし現在、趣ある古民家たちは使われない空き家に変わっています。古民家と地域交流の場を開拓するため、改修作業、煙突作り、交流イベント等の活動を行なっています。2つ目が、学生活動の拠点「学生ルーム」をつくることです。ミーティングやセミナー、情報共有、発信ができる環境を整備し、共同空間として活用しています。3つ目として田地でのイベントを行う予定です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新入生ミーツ(月1回)											

SDGs Eプロジェクト

06 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-(14名)
継続(2004年～)
彦根市・東近江市・学内他
木村里奈(人間文化学部)
福留義典(人間文化学部)
林幸司(環境科学部)
NPO法人よよさとまちづくり委員会
<https://ameblo.jp/kamekoya170615/>

地元よし × 学生よし × 家主よし

かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新入生ミーツ(月1回)											

SDGs Eプロジェクト

09 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

<img alt="Photo of students working